

## ワークショップ 6

### 「下部消化管出血に対する最新の診断、治療、予防」

司会 貝瀬 満（日本医科大学消化器内科学）

中村 正直（名古屋大学医学部附属病院光学医療診療部）

下部消化管出血は小腸または大腸からの出血をきたす病態である。小腸出血は2015年に内視鏡診療ガイドラインが発表されたが依然として血管性病変の内視鏡治療や二次予防など議論が必要である。大腸出血は憩室、虚血や血管性病変、腫瘍など原因が多彩で、有効な薬物治療がないため、新規止血材料を含めた様々な内視鏡治療が試みられている。診断・治療・予防に関する新しい知見を披露いただき有効な情報交換の場としたい。